

学生 FD サミット・2010 冬

—大学を変える、学生が変わる— に参加して

教育開発支援機構 FD 推進センター
センター長 川上 忠重

2010年2月20(土)、21日(日)の両日、立命館大学衣笠キャンパスで行われた「学生サミット・2010冬」—大学を変える、学生が変わる—(以下サミット)に参加する機会をいただいたので、ここで簡単に内容を紹介します。本サミットは、立命館大学の学生FDスタッフが中心となり企画されたものである。立命館大学の「学生FDスタッフ」の詳細は、以下参考HPで是非、ご覧いただきたい。

サミットの内容は、20日に、オープニング、学生FDに取り組む各大学の発表、しゃべり場、懇親会及び21日に、グループワーク、グループワーク発表、エンディングで構成されている。ここで「しゃべり場」について少し解説しておきたい。「しゃべり場」とは、あるテーマに基づいて自由に話し合いをする場であり、今回のサミットでは、多くの大学の学生・職員・教員が一緒になって何か新しい「学生FD」の案を考えるがテーマとして設定されている。大学の職員・教員は、自校の学生とは同じ「しゃべり場」のグループにはならず、また学生も自校の学生とは同じ組合せにはなっていないのも特徴であり、学生も職員・教員も、自分の大学や教育に関して思っている身近な疑問や不満、良い点などを、ほぼ初対面の人に自ら説明するところから始まる、非常にハードなグループワークがメインとなっている。初日の「しゃべり場」では、「学生FD」の案の提案に対して「何が問題で、それをどうしたいのか」の問題点、目標を設定し、二日目のグループワークでは、内容についての議論を深め、グループ代表者の全体発表までが一連の流れである。今回は40大学からの参加(参加者数200名程度)があり、全体で、20グループで構成されており、各大学の「学生によるFD」の関心の高さが印象深い。学生からの指摘項目として、例えば「目的を持たずに、学生生活を送る大学生」、「やる気のない先生に物申す」、「学生、教員、職員が一方通行」等々、非常に厳しい提案もあり、「学生の大学生活とFD」についてあらためて本サミットへの参加を踏まえて、検討を行いたい。

本学からは、社会学部大崎雄二教授及び社会学部の学生4名も参加していたが、是非、多くの本学の学生・職員・教員にも「しゃべり場」的な議論ができる場や情報提供も併せて行い、今後の本学のFDをより一層活性化していきたい。

以上

参考

立命館大学 「学生FDスタッフ」

http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/ac/itl/itl_fd/fd.html